

東京都

武蔵野大学 ～有明キャンパスの空に浮かぶ屋上農園～

● 屋上農園の開設のきっかけ

- ・屋上には都の緑化条例により芝生が敷かれていたが、工学部サステナビリティ学科の明石教授が「使われていないのはもったいない」と考えたのが始まり。
- ・自然と触れ合う機会が少ない都会で、学生や教職員が日常的に自然と関われる場として、屋上農園を提案。

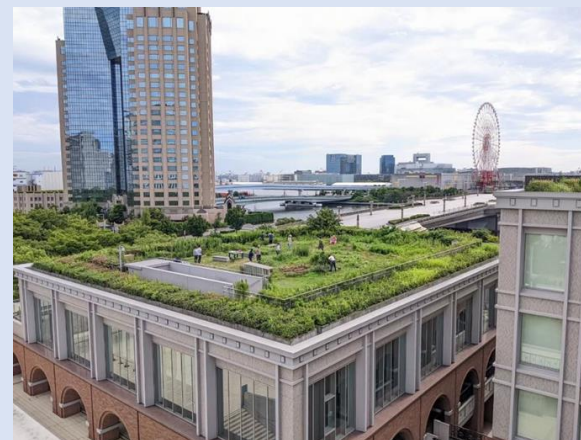
● パーマカルチャーを取り入れた農園

- ・2017年に学生とともに屋上農園プロジェクトを始動し、都市型農園の可能性を広げる実践的な活動を展開。
- ・明石教授が研究する「パーマカルチャー（持続可能な農業と暮らしのデザイン）」の理念に基づいて設計。
- ・活動規約は存在せず、学生が自由に参加できるのが特徴となっており、週1回、20人程度が集まる。

● 再生型農業（Re-generative Agriculture）

- ・複数の作物を少量ずつ育てる少量多品目栽培で、環境変化へのレジリエンス（回復力）を高めている。
- ・土を耕さず自然の力を活かす、自然農法や不耕起栽培などにも積極的に取り組んでいる。

都会の屋上に命が芽吹き、自然と都市が出会うオアシス



雑草マルチやコンパニオンプランツなど、互いに教え合う



- ・学内外から出る食べ残し、コーヒーかす、落ち葉を堆肥化し、土に還すことで、ゴミを資源に変えている。
- ・屋上での養蜂を通じて、自然の循環や生態系への理解を深め、都市の中で生物多様性を育んでいる。
- ・採れた農産物や蜂蜜は、学内のカフェで販売されるほか、期間限定で学外のマルシェにも並んでいる。

● 活動の成果

- ・都市の屋上を、農園やコミュニティの場として活用する好例として、関連企業が視察に訪れている。
- ・緑豊かな屋上農園や学生の活動、養蜂など、魅力と物語性を備えた取組として、メディアが取材している。

● 今後の展望

- ・屋上農園への関心を追い風に、企業視察を契機として、持続可能な都市農業の横展開を加速させる。
- ・学生・企業・地域住民が垣根を越えてつながる、都市型農園を核とした共創コミュニティを育てる。

● 詳しい情報はこちら（農園 Instagram）

農作業はせずに、見るだけ、話すだけでもOK。のんびりしに来てください！



★ 概要 ★

農園開設：2017年 活動分野：再生型農業、共創コミュニティ

メンバー：活動は自由参加 問い合わせ先：o_akashi@musashino-u.ac.jp（明石教授）

ゴミを捨てるから土をつくるへ、命の循環が野菜を育てる



Harvest on the Rooftop 屋上から始まる、持続可能な農の恵み

